



壇上から各団体の代表9人の方々が、新法に期待する発言がありました
 ◀閉会のあいさつは、さいたま市障害者協議会浅輪田鶴子会長

みんなで創ろう！
障害者福祉法を！in埼玉
 一月二十日（金）埼玉会館小ホール

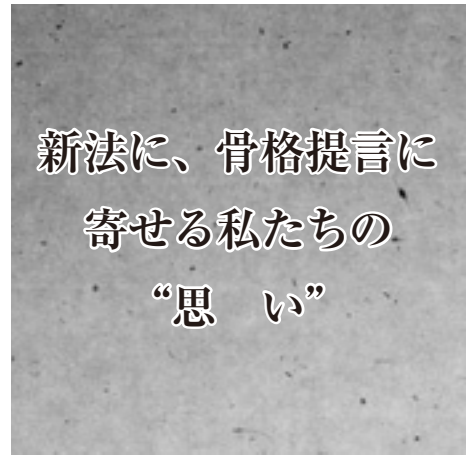


私たちの期待を担った新法なのに…
 さいたま市手をつなぐ育成会 宮部 幸子

障害者自立支援法による障害程度区分判定が始まった頃、娘が通所する生活介護の施設では、親たちの間で「障害程度区分3以上でない施設にいらなくなる」と大騒ぎした時期がありました。結果的には、障害程度区分を理由に退所した方はいませんでした。本人と家族の気持ちを置き去りにした障害程度区分判定に、誰のための施設なのか、誰のための制度なのかと理不尽な想いで一杯になったのを今でも良く覚えています。

総合福祉部会でまとめられた「骨格提言」によると、障害程度区分ではなく、市町村の「支援ガイドライン」に基づくニーズ評価と支援内容の検討により支給決定がされるそうです。最初に本人がサービスの希望を出し、それに対して調整・協議が行われ、本人の選択を尊重するシステムとなるようです。これまでの障害程度区分では、受けたサービスが限定されてしまいましたが、必要とされるサービスを本人と家族で共有できることに安心感が持てると思えました。

私たちの願いは「障害があっても地域であたり前に生きていけること」です。人は誰しも、自分に障害があることを望んで生まれたとは思いません。障害があることを生きたためのマインナス要因にしたいと思いません。現在、「骨格提言」について関係機関で議論が行われていますが、障害を個人の責任とせず社会全体で包み込むことで、障害のあるなしに関係なく、誰もが住みよい社会になれると信じています。障害のある人たちの人生を真ん中にして、「骨格提言」に添った新法の制定を願っています。



**私たちのことを
私たちが抜きで決めないで**
さいたま市障害者協議会
渡辺シヅ子

平成24年1月20日に行われたNPO法人埼玉県障害者協議会主催「埼玉障害者フォーラムみんなで創ろう！障害者総合福祉法」では、それを願う五百名余りが埼玉会館小ホールに集い、学習と共に、各々の訴えと、大会アピールを確認しました。

障害者自立支援法に代わる制度づくりは、推進会議総合福祉部会が議論を重ね骨格となる2つの指針、6つのポイントと10の柱をまとめ上げ提言しました。

- 2つの指針
- 1、障害者権利条約
- 2、障害者自立支援訴訟における基本合意文書

この日は、前日の雪が残っている所にちらほらと雪が降りてくる、凍るような寒さの日でした。実行委員たちは、空を仰いで「みんな来てくれるかな」と心配顔でした。準備が整って幕を上げてみたら、客席はほぼ埋まり、遅れた人たちが上から客席に下りてくるのが見えました。「何とかしなければ」という気持ちが伝わってくる光景でした。

○6つのめざすべきポイント

- 1、障害のない市民との平等と公平
- 2、谷間や空白の解消
- 3、格差の是正
- 4、放置できない社会問題の解決
- 5、本人のニーズにあった支援サービ
- 6、安定した予算の確保

○10の柱

- 1、法の理念・目的・範囲
- 2、障害(者)の範囲
- 3、選択と決定(支給決定)
- 4、支援(サービス)体系



5、地域移行

- 6、地域生活の社会資源整備
- 7、利用者負担
- 8、相談支援
- 9、権利と擁護
- 10、報酬と人材確保

地域で生活ができるよう
埼玉県精神障害者団体連合会
保田 三彦

「障害」を自己責任とした応益負担、障害の程度によるサービス利用の規制、「訓練」中心の支援などを抜本的に改革し、「骨格提言」をふまえた新法、障害者総合福祉法(仮称)の一日も早い制定が待たれます。

先月の十二月後半に、私が元住んでいた地域で、精神障害をもつ我子のためにと福祉会の元会長を十数年前にされていた方が亡くなりました。「障害者総合福祉法を！」の強い思いを持ちながら、道半ばにして亡くなられた関係者の皆さん、そして、東日本大震災により被災された皆さんに対しても、とても衷心よりお悔やみ申しあげます。

また、精神障害者の人も割にいる自殺者が昨年三万五一五人にのぼり、十四年連続で三万人を超えました。痛ましいことです。対策が急務です。

それから、約七万人と言われている精神障害者の社会的入院を減らす体制と取り組みをしっかりとしてほしいと考えます。高齢者の病床数は減っているように思えません。病院の中に錠をかけて、閉じ込めておく閉鎖病棟から開放病棟へと改善し、そして、地域での生活ができるような、地域医療体制を充分にしてほしいと思います。

そのために、診療報酬が患者四九人に対し医師一人でよいなどという精神科特例を廃止して、手厚い医療を受けられるようにしてほしいと考えます。

また、精神障害者が地域で生活しているために、グループホームや地域活動支援センター、小規模共同作業所に対し国や地方自治体の十分な支援が必要だと思えます。

それから、こうした福祉施設に従事している人たちは、献身的に使命感を持って働いていますが、この待遇はきわめて不十分です。年令や経験に応じた賃金が保証出来るように、国や地方自治体の支援が必要だと痛切に考えます。

私は精神と一級の身体障害の多重障害者ですが、皆さまに支えられて、地域で生活し続けたいと考えています。

被災地を応援しよう 災害をくぐりぬけた 施設の見学とお魚市場

—飯塚寿美—

十二月十三日総勢二十三名で、茨城県那珂市にある知的障害者厚生施設「なるみ園」と那珂湊にあるお魚市場を訪れました。

予定時刻丁度に到着。さっそく食堂に案内されて、施設の沿革と利用者の状況、また「震災時の課題」について説明を受け、建物内を見学しました。

創設されて10年になるこの施設では、入所、生活介護、就労移行支援、日中一時支援等が行われています。体力作りも兼ねた野菜やシイタケ栽培等に従事する農耕班、空き缶潰しや農作業を助けるエコ班、それぞれの能力に応じた軽作業をする室内作業班、見学者を接待する事も含まれる生活作業班などがあり、それぞれが持てる力を発揮できるようにという、きめ細やかな配慮に感心しました。

この施設も、東日本大震災の影響を受けたそうで、大災害は免れたものの

外壁や照明器具が落下し、多少の混乱があったようです。幸い農作業用の大きなテントがあり、一晩入所者全員で肩を寄せ合い過ごしたとの事。職員の献身的な働きでパニツクも起きなかったそうです。日常生活用品が不足する事態では、関西に住む親せきを頼り、ヤマト便の機転により翌日には届いたとのこと。人のつながりの大切さを改めて思いました。

施設は中庭を囲む口の字に配置されていて、明るく整った二人部屋や、重度の方の作業風景も見学できました。その後、車で五分ほど移動して「プアームなるみ」と自立可能な人のためのケアホームを見学しました。

震災をふりかえって

なるみ園施設長

峯島 伸行

今回の震災を振り返ってみてしみじみ思うことは、外出していて地震にあいなんとか施設に戻り利用者・職員に被害がなかったとの報告を聞いた時は何よりうれしく思いました。

施設は、平成十四年の開設であり建物而建ててから一〇年と比較的新しいのと平屋建てであったことが幸いしたかもしれません。日ごろの避難訓練もパニツクにならずに済んだ一つの要素になっているかもしれません。



パン工房、味噌工房もあり、直売店には様々な野菜や加工品、喫茶コーナーもあって、お土産をたくさん買い込む姿が見られました。

その後那珂湊のお魚市場に回り、おいしいお魚を堪能しお土産を買い込んでから、帰路に着きました。

突然の出来事で不参加だった浅輪会長、残念でしたね！



電気もなくガソリンも不足するなど色々不便な思いはしました。震災あつた晩は、建物内部のエアコン・換気扇・天井などが垂れ下がっていることや余震がつづいていたこともあり危険なため農耕用のビニールハウスの中にみんなで寝ました。照明は、車のライト。暖房は石油ストーブ。トイレに行く利用者には懐中電灯で足元を照らしながら誘導しました。深夜になるとさらに寒く震災だなど感じさせられました。それでもなるみ園は、恵まれていた方だと思えます。米とみそは、自分たちが作ったものがあり、慌てて調達に走りまわらずに済みました。お陰さ



まで利用者にはひもじい思いはさせなかつたと思っています。

あうんの呼吸・インタビュー

中野さん一家の生き方

父・中野 勇さん 息子・中野 克美さん

さいたま市身体障害者福祉協会の新年会の席で隣に座った中野さんの「家族のことも取り上げてほしい」と言う言葉がきっかけで、インタビューが実現しました。

会ってみてびっくり、息子さんの克美さん（四十四歳）は一メートル八センチ近い偉丈夫でした。

インタビュー 浅輪 田鶴子

父 中野勇さんの人生

—中野さんはいつごろから視力が無くなったんですか

父 十八歳のころ、職業訓練所を兼ねた会社で工業高校を目指しながら仕事してたんですが、何か目に違和感があって、目に切り粉が入ったんだろうと言われて眼科に行っただんですが、過労もあつたんだと思うんですが、結果は両眼とも0・02だったそうで・・・

—その話、聞いたことありますか

息子 ええ、ありますよ。若い時はサラリーマンだったんだよって・・・

父 それから会社の紹介で川越の盲学校に行っ、将来を考えたらマッサー



ジの資格でも取ったらどうかって勧められたんだけど、盲学校がなじめなかつたんですね。

息子 母親曰く、そのころはグレていたそうですよ。

—今まででできたことができなかったのストレスでしょうね。

—奥さんとは・・・

父 成人式を行ったくらいだったと思いますが、そのころ女房と同じクラスだったんですよ。

—へえ、そうだったんですか。やはり視覚に障害のある方ですか？

父 小さい頃はみえていたようなんですが、4年生までは公立の小学校にいて、だんだん教科書の字が読めなくなつて、盲学校に行ったらと勧められたと言っていました。

—まあ、私のように大人になつてから見えなくなった者は、点字の勉強にしても一年生からやるのは抵抗があつてね。私は点字はマッサーの資格を取るためだけに勉強したようなもので・・・

結婚は二十一歳のころでした。

視覚に障害があるということ

—ご両親に障害があると気付いたのは何時ごろでしたか。

息子 （でも）、障害があるということとは物心ついたときには理解していません。見える、見えないということには、余り感じていませんでしたね。

妹がいるんですが、妹もそうで、今この年になって見ると、目が不自由だつていうことは、考えようによつてはより深いところがよく見えるつていう意味で、そのような親を持ってラッキー

—だったんじゃないかって思うんです。—ご両親を支えて行こうと思われたんですね。

息子 子どもですからそのような大それたことではなかったと思いますが、読み書きや学校の書類にしても、小学校4年のころから自分で書いていましたね。叔父さんや叔母さんが面倒みてくれましたし・・・難しいものは

—親父が家はビンボーだったつて言つてましたけど、僕はあめ玉一つ買つてもらえなかつたの、覚えてますよ。

—買って買ってつて、ダダこねたことは？

息子 やつてましたね。道端に寝ころがって泣いていたことを覚えてます。

—お子さんは？

息子 三人います。女、男、男です。僕は苛められてる子とか困つてる人とか見ると無関心ではいられないんですね。いじめっ子に、なんでそんなことするのつて言つちやつてから余計なことしちやつたつて思つたりして・・・

—身内に弱い人、障害のある人のある家族つて、そんなもんなんじゃありませんか。

息子 そうなんです。

—基本は一人ひとりの家族の幸せですよ。あなた自身の幸せなんです。障害のある人のそばにいて、何かあ

った時に「そうじゃないんです、ほんとはこうなんですよ」と言って社会と繋げてくれる人、それが家族であってほしいですね。

これってしょうがい？

息子 僕ね、「しょうがいしゃ」っていう言葉、嫌いなんですよ。

小さい時から父親見ても母親見ても、普通に暮らしているわけですよ。

ご飯作ってくれて、お風呂いっしょに入ってくれて、何も障害ないですよ。僕の子どもも幸い何も不自由なことは無いし、僕も、今は元気だけれどいつ障害を持つかわからない。だけど、その時「障害者」って言われたくはないですね。

いま、障害の害を平仮名で書くことが広がっていますけど、これでは本質的には何も変わっていませんよね。必要なのは、違う言葉ですよな。

息子 日本語でもいいし、片仮名のことばでもいいんですよ。

ことばって、大切だと思うんですよ。妹さんはどこにお住まいですか。

息子 川口の方です。

—おひとりですか？

息子 未だに独身でいます。

妹はスポーツ好きで、未だ独身で一人暮らししています。結婚して子供産んだ方が幸せかとも思いますが、子供

はもう兄貴の子どもがいるからいいやっつて・・・

父 男みたいなんです。髪はスポーツ刈りみたいにすることもあるしね。

—なんか、お子さん二人が両極端みたいだけど、面白いんじゃないですかね。

お父さんとしてはどうですか

父 まあ、どっちも健康でいてくれればね。

息子 でもね、妹が家に来ると親の顔つきが違いますからね。

—かわいいんでしょう。幾つになつても・・・

息子 僕が親元で家庭を持っているから遊びに来るのも遠慮していることもあるかな。

—妹さんなんて呼ばれています？

お兄ちゃんですか。

息子 兄貴です。

—やっぱりね。アハハハハですな！

障害を身近に感じる者として

息子 僕今、長距離通勤しているんですけど、その途中でいろんな人を見かけるんですよ。

でも、僕みたいな体格で言葉掛けるのって、ちょっとためらうんですよ。

だから、あえて優先席に座ったりするんです。譲りやすいですからね。

—体格なんか気にしないで言いますよ。うよ。誰かが言っていくつていうのは

大切なんですよ。

一人が言っても何にもならないじゃなくて、一人の蓄積が行政や世論を動かすんですよ。

息子 僕は、何かしたいと思っても、どうしたらいいのかわからないんですよ。

父 親を通してでもいいから、言っ



父親、母親の手を引くことはできませんが、それ以上のことになる、自分に何ができるのか、分からない。障害のある人の方からも、言っても

—それですな、発信しなきゃいけないんですよ。

—それ、その気持ちよく分かりますけど、もう一歩前へ出てください。

息子 出させてくださいよ。

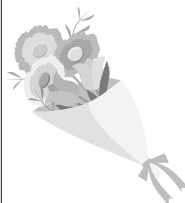
ほんとにどうしたらいいのかわからない

いんですから。

僕らの世代もそうですが、僕らの子どもたちが何をしたらいいのかわかるようにしてほしいんですよ。

父 親を通してでもいいから、言っ

—分かりました。頼りにしています！



三国コカ・コーラグループ 自動販売機総合オペレーター



三国フーズ株式会社

私たちは『飲・食』のサービスを通じ、すべての人々へ『うるおい』を提供します。

〈本社〉〒363-8601 埼玉県桶川市大字加納180番地 TEL 0120-568-392



みんなが話そう やさしくって偉大な河合洋佑氏を偲んで



河合洋佑氏

さいたま市聴覚障害者協会

会長 川津 雅弘

さいたま市聴覚障害者協会顧問河合

洋佑氏が昨年11月30日永眠されました。今まで聴覚障害者のためにろうあ運動に尽力され、福祉向上のため一生懸命私たちの先頭に立って頑張ってこられた方です。

大宮時代から数々の運動の成果を残されてきたことは皆さんもご存じのことと思います。また、三市合併時には河合氏が三団体（浦和・与野・大宮）それぞれの活動を評価し意見をまとめ、さいたま市聴覚障害者協会を設立することができました。また、設立以来7年間、会長としても活動されてきました。

ろうあ運動で何を考えるべきか、行政や関



係団体との交渉技術など河合氏の背中を見て勉強させていただきました。そのおかげで現在、協会代表として行政や関係団体などの交渉を進めることができるようになったと思っています。

ろう重複障害児の親や学校の先生からの要望で、社会資源づくりのための支援に取り組み、毛呂山町にある「ふれあいの里・どんぐり」の施設を開所することができました。聴覚障害者の長年の願いであった聴覚障害者情報センターについては埼玉県に交渉した結果開所することができました。高齢者が安心して暮らせる豊かな施設を目指し、特別養護老人ホームなどなふく苑を設立し、法人理事長として責務を果たされました。内山さんの労災裁判を支援する

会も担当し、登録手話通訳者の身分保障のために支援する会を立ち上げ、国との交渉などにも尽力されてきました。これらはほんの一部にしかすぎません。河合氏のろうあ運動の成果があつて今の福祉制度があることを忘れずに、これからの会員にも繋げていきたいと思えます。

河合氏は昨年春頃、病気が発見されましたが活動を止めることなく最後まで活動を続けられました。しかし、昨年夏頃から体力的に厳しい状態になつ



▲毎年1月に行なわれる聴覚障害者協会の新年会で

たため、自宅での療養に入られました。そのような時でも活動状況を心配され、また、引き継ぎのために連絡をとるなどされていきました。本当に最後まで聴覚障害者の福祉向上について熱く語られていました。今は安らかに空から私たちの様子を見守ってください。河合氏からの数々の言葉を胸に今後は私たちが遺志を引き継いでいきたいと思っています。謹んでご冥福をお祈りいたします。



浦和ダウン症児を育てる親の会コスモスは、たくさんの方に支えられながら、お陰様で創立二十五周年を迎えることになりました。

二十五年と言えば四半世紀です。大きな区切りの年ということで、足かけ二年がかりで記念誌作成とお祝いの会の準備を進めて参りました。十周年記念誌の時にはなかった就労

のことや兄弟の思いなども今回の記念誌には載っています。それだけ子ども達も成長したということで、二十五年の年月の重みを感じます。

また、記念誌を作成しながら、先輩方の歩んでこられた月日に思いを馳せ、その努力のおかげで今があることに改めて感謝しております。

コスモスは十年ほど前に、日本ダウン症協会埼玉浦和支部になりました。お祝いの会には理事長の玉井先生も駆

けつけてくださり、「継続は力なりですよ」と励ましのお言葉をいただきました。また、県立小児医療センターの大橋先生や、障害者協議会からは副会長の飯塚さんにもご出席頂き、温かいお言葉を頂戴致しました。ありがとうございます。

普段よりちよっぴりおめかししたダウン症の子ども達は照れくさそうな笑顔で、成人したダウン症の人達はアルコールの入ったグラスを片手に得意そ

うな顔をして談笑している姿が、まだ小さいダウン症のお子さんを育てているお母さん達にはとても微笑ましく、希望となったようです。

団体紹介 聴こえないけど話せます

さいたま市難聴者・中途失聴者協会 池澤 五郎

さいたま市難聴者・中途失聴者協会が埼玉県難聴者・中途失聴者協会から

分家したのが十年前。政令指定都市誕生に伴う行政区の変更によるものと聞いています。その点ではどこの団体でも同じではないでしょうか。

私達の協会は名前の通り、耳の聴こえが悪い人、聴こえない人達の集まりです。

生れた時から聴力が弱いか、大人になってから何らかの病いが原因で難聴になったという人も多いと思います。私の友人は結核の薬の服用で、病いは治ったのですが軽い難聴が残り、今は老人性難聴も加わり補聴器を使用と言っています。私も、メニエール病が原

因で難聴になりました。

私達は、見えない障害とも言われ、一見では障害者には見えないのが誤解の元にもなっていると思います。更には、難聴者は、言葉を話せる人が大部分だと思えますが、それが又、誤解の原因でもあるのです。聴こえない人は言葉が話さない、話せる人は聴こえて

いる、という一般の人の考え方なんです。最近では少し見直されては来ましたが・・・

聴こえない耳への対応は、補聴器の使用、人工内耳の装着手術など。情報の収受は、手話、読話、要約筆記などがあります。

私達は難聴者の重要な情報発信源と

して会報、「彩のみみ」を発行しています。各区役所支援課等に常置させて頂き、閲覧に供しています。

難聴会の活動のひとつに市障協へ参加させて頂き、市障協主催の家族教室「手話教室」などを開催。又、障害者週間記念行事「市民のつどい」にも参加させて頂き、難聴会のPRと、マーケット・グッズの販売とか、女性会員有志の「赤飯」の販売なども「つどい」の中で行っています。

先日、市障協主催、聴覚障害者協会主管の「救護教室」に参加、緊急時の救命、救護について勉強する機会がありました。難聴会も聴覚障害者協会も、聴こえない、聴こえづらいという点では同じような障害を持つ人達の団体ですが、そういった各団体間の交流が多くなれば他障害の事も、理解が進むのではないかと思います。

聴こえない、聴こえづらいという点では同じような障害を持つ人達の団体ですが、そういった各団体間の交流が多くなれば他障害の事も、理解が進むのではないかと思います。

お料理も雰囲気も楽しめました

和やかに、新年団体交流会 二〇二三年一月二四日

朝起きてみると、前夜からの雪が数センチ積もっていて、一面の雪景色。年に一度の新年団体交流会の日だと言うのに、何と生憎なことでしょう。

この冬は、寒気団が広く日本列島を覆っているとかで、日本海側の各地に記録的な大雪をもたらしていますが、ついに関東南部地域のわが町「さいたま」にも積もったか！と考えてしまいました。

一方、東京地方に雪が降るのは「春の訪れ」との見方もあり、嬉しい兆しなのですが、身体に何らかの不具合を抱えている障害者仲間にとって、雪は大敵。出掛けようとする時の苦労は何大抵ではありません。

幸い、集合時間の前ごろには日陰以外の道路は、普通に歩くことができ状態になり、予定された皆さんが元気に顔を揃えてくださいました。

今年も会場はパレスホテル大宮。クラウンレストランは一昨年続き2回目です。フレンチのフルコースですが、お箸でも食べやすいような気配があり、両手とも不自由な私にはとてもありがたいことです。ですから私は、皆さんと共に楽しく食事をしながら、ちよつぱりリッチな気分も味わえるこの

交流会を楽しみにしています。

食事をしながらの皆さんの話題はと言えば、何と言ってもあの3・11のこと。人々の一生のうちでもめつたに遭遇することがない大地震と大津波、それに福島第1原発の事故の被害が合わさったのですから無理もない話です。

そして障害者の今後の生活を大きく左右する「障害者制度改革」のこと。内閣府に設けられた「障がい者制度改革推進会議」の「総合福祉部会」が

委員五十五人の総意として纏め上げた



「障害者総合福祉法（仮称）」の骨格提言を受けて厚労省がどんな法案を示すのか、強い関心を持つ人が多いのも当然でしょう。

少しアルコールが回ってくると、お口は滑らか、話は柔らかなになり、交流会の雰囲気も盛り上がってきたところで、恒例の「アマダくじ抽選会」となりました。

係りの人が「アマダ」の線をとどって行くのを見ながら皆さんハラハラドキドキ。

パンパカパーン！今年の特等賞は！な・何と、私の選んだ番号が当たったのです。「こいつは春から縁起がいいわい」と浮かれてばかりでは申し訳ない気がします。この幸運を少しでも被災地の方へと思い、相当額を被災地募金に入れさせていただきました。

障害者（児）の生活と権利を守るさいたま市民の会
平林 彰

編集後記

東日本震災から一年、遠くにも被災者の胸の内の重いものはないこんな短い期間で消えるものではないということがひしひしと伝わってくる。

むしろ、一年経ったから明らかになった政府の危機管理の危うさ、数々の対応の失態、国民として私たちは何を託したのか、情けなくて涙もこぼれない。

威勢よく「障害者自立支援法は廃止します」と宣言した長妻元厚生労働大臣は今どこで何をしているのか。

にっぽん丸はかじ取りを失い、難破船となって放射能を浴びながらただよっているだけなのか？

なんて考えると気が滅入るだけ！今、私たちにできることは何か、きちんと考えて前へ進みましょう。(A)

さいたま市障害者協議会
会報あ・うん第16号
発行 さいたま市障害者協議会
会長 浅輪 田鶴子
編集 さいたま市障害者協議会広報委員会
〒330-0801 さいたま市大宮区土手町1-213-1
大宮ふれあい福祉センター4階
TEL 048-653-7271
FAX 048-653-7341
http://www.saitama-planet.com/
e-mail saitamacity-handynet@bz03.plala.or.jp

この会報は、共同募金の配分を受けて発行されています。